

第 2 期鴨川市健康福祉推進計画策定に向けた 地区別座談会 実施結果報告書



平成 27 年 9 月
鴨 川 市

目 次

I 地区別座談会の概要	3
1. 実施概要.....	4
II 地区座談会実施結果	9
1. 地区座談会意見の計画体系別まとめ.....	10
2. 健康増進計画関連の意見まとめ.....	13
3. 地域福祉計画関連の意見まとめ.....	23
4. その他意見まとめ.....	33
III 地区ごとの実施結果	36
1. 鴨川地区.....	37
2. 主基地区.....	40
3. 西条地区.....	44
4. 田原地区.....	47
5. 東条地区.....	50
6. 吉尾地区.....	53
7. 江見地区.....	56
8. 太海地区.....	59
9. 曾呂地区.....	62
10. 天津地区.....	65
11. 小湊地区.....	69
12. 大山地区.....	72

I 地区別座談会の概要

第 2 期鴨川市健康福祉推進計画策定に向けた地区別座談会実施結果報告書

1. 実施概要

(1) 地区別座談会の目的と趣旨

第2期鴨川市健康福祉推進計画並びに地域福祉活動計画の策定にあたり、鴨川市社会福祉協議会との共催により、市内12地区で座談会を開催し、市民や健康福祉関係者・団体等との意見交換を行い、地域における健康福祉に関する意識やニーズ、課題等を把握するとともに、意見や提言などを取りまとめ、計画に反映させることを目的として開催しました。

なお、企画政策課において現在策定中である「鴨川市人口ビジョン」及び「鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、概要説明等を行い、併せて意見等を求めるとともに、「その他」として、平成27年10月から通知が始まる「マイナンバー制度」について、市民生活課より説明を行いました。

(2) 開催日時

平成27年8月1日～8月8日、10日・11日・13日の11日間（全12地区）

(3) 参加者について

市内を全12地区に分け、各地区にお住いの市民の方を対象に、年齢・性別・職業等を問わず、自由参加の形式で開催しました。

主催者側出席者については以下のとおりです。

市長・副市長(※どちらか)、企画政策課長、子ども支援課長、健康推進課長、福祉課長、市民生活課長、鴨川市社会福祉協議会長及び同事務局長、事務局(健康推進課、子ども支援課、福祉課及び鴨川市社会福祉協議会の職員)

(4) プログラム概要 ※各地区(会場)共通

①主催者あいさつ(鴨川市、鴨川市社会福祉協議会)

②説明

- 1) 鴨川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- 2) 鴨川市健康福祉推進計画について
- 3) 地域福祉活動計画について

③意見交換

- 1) 意見交換会(説明事項全般について質疑応答を含めて意見交換を行う。)
- 2) グループワーク(健康福祉関係について、各グループからの意見し発表を行う。)

④全体のまとめ

⑤その他

※座談会のプログラム詳細については次ページに記載しています。

◆地区別座談会のプログラム詳細

	内容
1. 開会	
2. オリエンテーション 市事務局より地区別座談会の資料確認・進め方について説明。	
3. 開会のあいさつ 鴨川市長（または副市長）・鴨川市社会福祉協議会長（または副会長）よりあいさつ。	
4. 鴨川市・鴨川市社会福祉協議会からの説明 企画政策課からは人口ビジョン・総合戦略の概要について説明。福祉課と健康推進課からは健康福祉推進計画策定の趣旨、鴨川市の健康・福祉に関する現状、これまでの市の取り組みや今後の方向性について説明。社会福祉協議会からは地域福祉活動計画について説明。	

5. 意見交換会 ※座長: 鴨川市長または副市長

説明をふまえ、質疑や意見など手上げ方式で参加者よりご発言をいただきました。



6. グループワーク

概ね3～9名を1グループとし、ファシリテーター及び記録者として市及び社協職員をそれぞれのグループに配置し、ファシリテーターを中心に、説明を踏まえて自由に現状・課題やアイデアについて意見交換・討議を行いながら、配布したワークシートに記入をしていただきました。



7. グループ発表

グループワークで話し合った内容について、3～5分程度で各グループの代表者から発表していただきました。



8. 全体のまとめ・ふりかえり

鴨川市長または副市長が全体の意見をふまえて、座談会をふりかえり。



9. その他

市民生活課よりマイナンバー制度について説明。



10. 閉会

(5) 配布資料等

- ①地方創生への鴨川市の取り組みについて【資料1】
- ②鴨川市健康福祉推進計画 地区別座談会説明資料【資料2-1】
- ③検診結果・医療費から見た鴨川市の健康状況【資料2-2】
- ④地域福祉活動計画の作成について【資料3】
- ⑤マイナンバー制度のパンフレット【資料4】
- ⑥地区別座談会ワークシート
- ⑦おたっしゅ元気通信(最終号)
- ⑧鴨川市福祉総合相談センターパンフレット

(6) 各地区の開催日時・場所と参加状況

全 12 回の実施日時および参加状況は下記の通りです。

No.	地区名	日 時	場 所	参加 人数
1	鴨川地区	8月1日(土) 午後1時30分～午後3時	中央公民館	20名
2	主基地区	8月2日(日) 午前10時30分～正午	主基公民館	33名
3	西条地区	8月3日(月) 午後7時～午後8時30分	ふれあいセンター	17名
4	田原地区	8月4日(火) 午後7時～午後8時30分	田原公民館	16名
5	東条地区	8月5日(水) 午後7時～午後8時30分	東条公民館	27名
6	吉尾地区	8月6日(木) 午後7時～午後8時30分	吉尾公民館	17名
7	江見地区	8月7日(金) 午後7時～午後8時30分	江見公民館	9名
8	太海地区	8月8日(土) 午前10時30分～正午	太海公民館	13名
9	曽呂地区	8月8日(土) 午後1時30分～午後3時	曽呂公民館	13名
10	天津地区	8月10日(月) 午後7時～午後8時30分	天津小湊保健福祉センター	14名
11	小湊地区	8月11日(火) 午後7時～午後8時30分	コミュニティセンター小湊	9名
12	大山地区	8月13日(木) 午後7時～午後8時30分	大山公民館	17名
市民参加者合計(延べ人数)				205名

(7) 参加者の属性

全 12 地区での座談会への参加者総数は 205 名でした。

その内訳については、性別では男性が 128 名、62.4%、女性が 77 名、37.6%でした。

また、年齢階層別では、「60 歳代」が 83 名で最も多く、4 割以上を占めています。次いで、「70 歳代」の 62 名、30.2%、「50 歳代」の 23 名、11.2%と続いており、高年齢層の割合が高いことが見て取れます。

地区名	参加者数 (人)	性 別		年 齢							グループ数
		男	女	39 歳 まで	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 代	80 歳 以上	不明	
鴨川地区	20	11	9	－	－	1	6	5	6	2	4
東条地区	27	10	17	1	－	1	9	9	4	3	4
西条地区	17	8	9	－	2	－	8	6	1	－	3
田原地区	16	10	6	－	1	2	7	6	－	－	3
主基地区	33	23	10	－	1	4	16	10	1	1	4
吉尾地区	17	13	4	－	－	3	8	3	－	3	3
大山地区	17	15	2	－	－	－	12	4	1	－	3
江見地区	9	6	3	－	－	－	4	4	1	－	3
太海地区	13	12	1	－	1	－	5	5	2	－	3
曾呂地区	13	12	1	－	1	6	2	2	－	2	3
天津地区	14	3	11	1	－	6	5	2	－	－	3
小湊地区	9	5	4	1	－	－	1	6	－	1	2
計	延べ 205	128	77	3	6	23	83	62	16	12	38
構成比 (%)	100. 0	62.4	37.6	1.5	2.9	11.2	40.5	30.2	7.8	5.9	－

II 地区座談会実施結果

第 2 期鴨川市健康福祉推進計画策定に向けた地区別座談会実施結果報告書

1

地区座談会意見の計画体系別まとめ

地区別座談会における健康増進計画と地域福祉計画に関する意見等を、現行計画に掲げる「取り組みの方向性」に沿って分類しました。

意見件数については地区単位としてカウントしました。同地区内において、複数のグループから出された意見であっても、同様の内容であれば「1件」としてカウントしています。また、占有率は母数を地区数の12として割合を算出したものです。

(1) 健康増進計画関連の意見

取り組みの方向性	意見数 (件)	占有率 (%)
1 ライフステージに応じた健康づくり		
【取り組みの方向 1.～4.】全体に共通する意見	7	58.3
1. 妊娠・乳幼児期の健康づくりの推進	—	—
2. 学童・思春期の健康づくりの推進	1	8.3
3. 成年・壮年期の健康づくりの推進	1	8.3
4. 高齢期の健康づくりの推進	5	41.6
5. 感染症対策の推進	—	—
2 栄養・食生活による健康増進		
【取り組みの方向 1.～2.】全体に共通する意見	—	—
1. 食育の推進	5	41.6
2. 豊かな食文化の発信	1	8.3
3 身体活動・運動による健康増進		
【取り組みの方向 1.～3.】全体に共通する意見	—	—
1. 運動習慣の定着	7	58.3
2. 運動プログラムの開発・推進	5	41.6
3. 自然環境や健康資源の活用	—	—
4 休養・こころの健康づくり		
【取り組みの方向 1.～4.】全体に共通する意見	—	—
1. 休養・こころの健康についての知識の普及	—	—
2. こころの相談体制の充実	1	8.3
3. うつ病・自殺予防への対応	—	—
4. こころの健康づくりに向けた取り組みの推進	2	16.6
5 喫煙・飲酒対策の充実		
【取り組みの方向 1.～2.】全体に共通する意見	—	—
1. 禁煙・適量飲酒の啓発	—	—
2. 薬物乱用防止対策の推進	—	—

6 歯と口腔の健康づくり		
【取り組みの方向 1.～3.】全体に共通する意見	—	—
1. 歯の健康についての啓発	—	
2. フッ化物洗口事業の推進	—	—
3. 乳幼児期からのむし歯予防の推進	—	—
7 生活習慣病対策の充実		
【取り組みの方向 1.～3.】全体に共通する意見	3	25.0
1. 各種検（健）診体制の充実	6	50.0
2. 保健指導・フォローアップの充実	—	—
3. 生活習慣病予防のための地域の基盤づくり	2	16.6
8 地域連携・協働による健康づくりの推進		
【取り組みの方向 1.～6.】全体に共通する意見	—	—
1. 市民総ぐるみ運動の展開	2	16.6
2. 健康づくりに関する情報提供・相談の充実	1	8.3
3. 健康コミュニティづくり	—	—
4. 健康づくりの体制づくり	—	—
5. 医療機関や大学との共同事業の推進	—	—
6. 地域保健医療環境の充実	3	25.0

（２）地域福祉計画関連の意見

取り組みの方向性	意見数 (件)	占有率 (%)
1 市民一人ひとりが主役の地域づくり		
【取り組みの方向 1.～2.】全体に共通する意見	—	—
1. 誰もが主役	5	41.6
2. 権利が守られる	—	—
2 ふれあい、ささえあいのある地域づくり		
【取り組みの方向 1.～3.】全体に共通する意見	—	—
1. ささえあう意識が根付く	9	75.0
2. 地域で気軽に交流	9	75.0
3. 担い手を育む	7	58.3
4. 福祉活動が活発	7	58.3
3 いつまでも安心して暮らせる地域づくり		
【取り組みの方向 1.～5.】全体に共通する意見	—	—
1. 生活のしづらさを軽減	9	75.0
2. 地域で見守り活動が盛ん	8	66.7
3. 孤独死や虐待、家庭内での暴力（ＤＶ等）がない	6	50.0
4. 災害がおきても安心して避難	4	33.3
5. 地域の活性化と安定的な自主財源の確保	2	16.6

4 誰もが生活しやすい地域づくり		
【取り組みの方向 1.～3.】全体に共通する意見	－	－
1. 必要な情報が行き届く	3	25.0
2. 困ったらすぐに相談	4	33.3
3. 必要な人が福祉サービスを受けられる	5	41.6

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他の意見

取り組みの方向性	意見数 (件)	占有率 (%)
1 まち・ひと・しごと地方創生関連・その他		
1. 人口減少について	10	83.3
2. 空き家対策について	5	41.6
3. 子ども・若者支援について	8	66.7
4. 施設のあり方について	6	50.0
5. 行政からの支援について	2	16.6
6. 健康福祉推進計画の策定について	2	16.6
7. 地区座談会について	2	16.6
8. その他	1	8.3

2

健康増進計画関連の意見まとめ

出された意見を計画の体系ごとに分類した結果を下記にまとめました。

1 ライフステージに応じた健康づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体に共通する意見		
【健康づくりに対する意識】 - 健康づくりは個人の自覚が必要。痛くなってから病院に行くことが多いのでは（太海） - 健康づくりに対して日頃から関心が低い（江見） - 病気や衰弱になってからでないと、健康に対する意識が生まれないのではないか（江見） - 健康に関する意識が低い、健康管理の仕方が悪い（江見） - 健康づくりの取り組みへの不満（主基） - 昔に比べて健康に気をつける人が増えたとし、健康診断で指摘をしてもらえ（大山） - 県ごとに寿命格差がある。良い県を見らなうことが必要（吉尾）	【健康づくりへの意識啓発】 - もっと健康についてのPRを（西条） - 年代別に働いている方に伝える（西条） - 健康診断、検診を受けるようPRをする（江見） - 運動をすることが健康づくりではなく、自分の居場所・役割を持つことが健康づくりにつながると思う（鴨川）	鴨川地区 主基地区 西条地区 吉尾地区 江見地区 太海地区 小湊地区
【健康づくり活動】 - 健康づくりをする余裕が無い（吉尾） - 労働で体を動かすのは、健康に繋がらない（吉尾） - 漁業従事者が多い地区であり、定年がなく生涯現役のため健康づくりをする時間がない（太海） - 核家族で家庭での健康への取り組みができなくなっている（吉尾） - 働くことが健康づくりに繋がることがある。病気になっても働ける環境が必要ではないか（江見） - 毎日ほとんどの人が外出はしている（小湊） - 自主的な活動、健康づくりの質を高めたい（小湊）	【健康づくりへのきっかけづくり】 - ラジオ体操を皆で集まってやってみる（鴨川） - 健康づくりのイベントがあると良い（吉尾） - サロンが増えていることが健康づくりの一環になっている（吉尾） - 健康管理にお金がかからない工夫が必要（鴨川）	

1. 妊娠・乳幼児期の健康づくりの推進		
2. 学童・思春期の健康づくりの推進		
	【学童・思春期からの健康づくり意識の醸成】 - 子どもに健康寿命について考える場所があるとよいのでは（鴨川） - ジュニアリーダー講習会の夜、パンを食べさせることを止めたら、体の調子が良くなったことがあり、肥満防止につながる（鴨川）	鴨川地区
3. 成年・壮年期の健康づくりの推進		
【成年・壮年期の病気のある方への支援】 60歳未満で病気等を患っている方（特に一人暮らしの方）が心配なく暮らせる援助が必要（主基）		主基地区
4. 高齢期の健康づくりの推進		
【高齢化に伴う健康不安】 - 高齢者の健康寿命を延ばす方法がわからない（鴨川） - 高齢化による気力・体力の低下を止めたい（主基） - 元気なうちはコミュニティに入っているが、体調を崩すと生活面で自立できなくなってしまう（小湊） - 気力が維持できる方法を知りたい（主基） - 日頃から仕事がりハビリになっている（大山）	【高齢者の健康づくりの取り組み】 - ピンピンコロリ運動を推進する（鴨川） - ピンピンコロリ運動で個人の健康意識の向上を図る（太海） - 元気な老人が暮らせるまちづくりに向け、介護する人・食事を作る人などの人材を育成する（鴨川）	鴨川地区 主基地区 太海地区 小湊地区 大山地区
【高齢者の健康づくりの意識】 元気なうちは良いが、何かあれば市や病院へお世話になれば良いと思っているのではないかと（小湊）	【高齢者の健康づくりの意識啓発】 地域の老人の健康に関することを地区社協のフォーラムを通して考えていく（小湊）	
5. 感染症対策の推進		

■まとめ

課題としては、健康への意識の低さや多忙による健康づくり活動の低下、また、高齢期における健康への不安などの課題が挙げられました。病院などの医療の環境が整っているからこそ『病気になっても大丈夫』という意識が芽生えてしまう、という意見も挙げられました。解決策のアイデアでは、各年代への健康づくりの意識啓発やきっかけづくり、健康運動（ピンピンコロリ運動¹など）を推進することにより、健康づくりの意識づくり、高齢者の健康寿命に対する意識が高めることなどが挙げられています。

¹ただ長生きするだけでなく、亡くなる直前まで元気でいようとする考え方で、「ピンピンコロリ（PPK）運動」として、長寿いきいき研究所顧問の首都大学東京大学院・都市システム科学 星旦二教授の研究チームで提唱されている運動のこと。

2 栄養・食生活による健康増進

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 食育の推進		
【子育て世代の食生活に対する心配】 ・高齢者より、子育て世代の食生活が心配。子どもの健康の見直しをしてほしい（東条） 【鴨川市全体の食生活に対する心配】 ・高血糖の人がなぜ増えたのか。砂糖の摂取過多が原因ではないか（大山） ・糖尿病が増えている原因としては食品が甘すぎたり、塩分も多いなどによるのでは（大山） ・食生活に気をつける。歩くのが運動にはならない（大山） 【高齢者の食生活に対する心配】 ・食事について、今後独居など増えてくると栄養面の問題や深刻な面も出てくるのではないかと（主基） ・独居高齢者が多い。食べ物の偏りの原因にもなっている（大山）	【正しい食生活への意識啓発】 ・栄養改善や朝食抜きを改善する必要がある（吉尾） ・食べ物に気をつける。塩分をしっかりと取る。カリウムも大切。毎日体操する（大山） ・食育の取り組みを進める（東条） 【地域への食育の取り組み】 ・地域への声掛けで糖분을減らす活動をしてみる。保健師さんにも指導してもらいたい（大山） 【学童・思春期の食育の取り組み】 ・学校の給食を通して、子どもに食事の教育ができると良い（田原） 【高齢者の食生活に対する支援】 ・生活支援介護予防サポーターの事業として、給食サービスを始め、社協と区を連携とっていく（大山） ・高齢者への給食サービスを行う（主基）	主基地区 田原地区 東条地区 吉尾地区 大山地区
2. 豊かな食文化の発信		
	【地産地消の推進】 ・地産地消、地場産業の活性化（東条） ・地方の料理を出し合う（東条）	東条地区

■まとめ

課題としては、食生活の偏りや栄養面に対する心配や不安、糖尿病の増加などに対する意見が多く挙げられました。解決策のアイデアでは、学校給食や給食サービス、地域への声掛けを通しての正しい食生活への意識啓発や食育の推進、専門職による指導、また、地産地消の推進などの意見が多く挙げられました。

3 身体活動・運動による健康増進

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用のアイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 運動習慣の定着		
【運動に対する意識】 - 女性にはフィットネスクラブ等の運動に自主的に参加しているが、男性は仕事以外に運動する機会が少ない（主基） - ラジオ体操を小湊小学校体育館で行っていますが、夏休みを通して子どもが来ない（小湊） - 目標を持ってリハビリを行うことが必要（鴨川） - 毎朝、海岸清掃をしている（小湊） - 生き生きとしている運動も含めて楽しみにしている（天津）	【運動による健康づくりの推進】 - 健康づくりをきめ細やかに行って欲しい。ウォーキングの奨励、グラウンドゴルフ場をつくる他、子どもと交流することで教育にもなる（太海） - ウォーキングを鴨川市が中心になって取り組むことを希望している（東条） 【ラジオ体操の活用】 - 朝にラジオ体操・ストレッチの推進（曾呂） - ラジオ体操などを行い、高齢者を外へ連れ出す（小湊） - 子どもと一緒にラジオ体操を（東条） - 体操などを地区ごとに行う（曾呂）	鴨川地区 主基地区 東条地区 太海地区 曾呂地区 小湊地区 天津地区
【運動のできる環境】 運動できる場所が減っている（鴨川）	【気軽に運動のできる環境づくり】 温水プールが市営であると良い（太海）	
2. 運動プログラムの開発・発信		
【運動に関するイベントやプログラム】 ウォークラリーがマンネリ化・縮小化しているので、ウォーキングの活性化のためにも一考を（東条）	【運動に関するイベントや講座の充実】 「遊ぶ農業」として、健康のため、楽しんで農業するのはどうか（天津） - スロートレーニングの講座を立ち上げて10年なのでもっと広げていきたい。現在は3箇所です160人の参加がある（小湊） - スポーツ会は50人くらい申し込みがある。年間3万人以上で、コミュニティセンターに入りきらない。自主的活動に広がっていくと良い（小湊） 【新たな運動プログラムの検討】 - さまざまな自治体を参考にする（鴨川） - 小学校と連携したらどうか（小湊） - 健康クラブを開催する。土日開催、スポーツクラブとタイアップなど（西条）	鴨川地区 西条地区 東条地区 天津地区 小湊地区
3. 自然環境や健康資源の活用		

■まとめ

課題としては、自主的な運動をする機会や運動ができる場所の減少に対する意見が挙げられました。解決策のアイデアでは、ウォーキングやラジオ体操など現在行っている活動の活用や、運動に関するイベントの開催、身近で気軽にできる運動の機会や場づくりに対する意見が挙げられています。

4 休養・こころの健康づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 休養・こころの健康についての知識の普及		
2. こころの相談体制の充実		
【こころの相談体制の現状】 ・精神・メンタルなどについての施設や 雇用の場が少ない（主基）		主基地区
3. うつ病・自殺予防への対応		
4. こころの健康づくりに向けた取り組みの推進		
【農業従事者の現状】 ・地域性として農業従事者が多い。健康 を考えた時に肉体的疲労などが伴う ことが多い（曽呂）	【農業従事者への支援】 ・「農休日」というものを設け、レクリ エーションさせるなどの取り組みは どうか（曽呂） ----- 【行事への参加促進】 ・五感を刺激する自治会の行事（音楽・ 映画など）への参加を促す（東条） ----- 【こころの休養の促進】 ・日帰り旅行などに率先して取り組む （曽呂）	東条地区 曽呂地区

■まとめ

課題としては、メンタルなどについての施設や雇用の場が少ないことが挙げられました。解決策のアイデアでは、レクリエーションへの参加や、休養をとること、音楽・映画などの鑑賞を促すなどの意見が挙げられています。

5 喫煙・飲酒対策の充実

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 禁煙・適量飲酒の啓発		
2. 薬物乱用防止対策の推進		

※「喫煙・飲酒対策の充実」に該当する意見はありませんでした。

6 歯と口腔の健康づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 歯の健康についての啓発		
2. フッ化物洗口事業の推進		
3. 乳幼児期からのむし歯予防の推進		

※「歯と口腔の健康づくり」に該当する意見はありませんでした。

7 生活習慣病対策の充実

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用のアイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
【市の健康増進の取り組み】 - 健康増進は介護予防が重要だが、今までどんな取り組みをしてきたのかわからない（東条） - 人間ドックの助成や社会保険からの切り替え条件など、検診関係の情報が不十分（太海）	【予防の取り組み】 - 介護予防サポーター・保健師の協力を得ながら、介護予防講座、健康ウォーキング、ウォーキングマップづくりなど（東条） 【情報提供】 - 人間ドックなども含めて、もっとPRをしてほしい（太海） - 健康寿命、体年齢に係る指標があると良い。体力年齢測定健康講演会実施予定している（曾呂）	東条地区 太海地区 曾呂地区
1. 各種検（健）診体制の充実		
【健診受診率の低下】 - 総合検診の受診率が伸びない（西条） - 健診受診率が低下している（吉尾） - 健診を受ける人が少ない（太海） - 健診受診率の低さをなんとかしたい（大山） - 特定健診の受診率が高くなれば、本人のためにもなり医療費も抑えられるのでは（田原） - 健診受診率が低い、足の確保が必要なのではないか。行きたくても足がないから行けないことも1つ（曾呂） - 受診するのに交通の方法も少ない（大山）	【受診しやすい健診】 - 近くに来てもらえば、受診率はあがるのでは（吉尾） - 近くの地域の中で行って欲しい。天津は合併前の方が受診率は高かった。スタッフがいなければ、地域の住民に協力してもらえば良いのでは（天津） - 健診を受けやすい場所にしていく（天津） - 総合検診の場所を決めて、細かく対応する（天津） - 精度の高い検診を行う。病院と同じ環境にする（天津） - 地区別で移動検診を行う（大山） - 健診などには送迎があると行きやすい（曾呂）	西条地区 田原地区 吉尾地区 曾呂地区 天津地区 大山地区
【健診受診のための移動手段】 - 健康診断、高齢者だと時間通りに行くことができない（田原） - ふれあいセンターになってから、総合健診へ参加する人が少ない（天津） - 健診受診率の向上と移動手段の確保が課題（曾呂）	【健診の受診勧奨】 - 健康意識を高める。モデルを探す。会社で受診したり、通院している人は受けない。病気になったら、それで終わりで良いという考えが出てきた（吉尾） - 理由を受診者の立場から考えさせないといけない。「親より早く死なないために」など（西条）	
2. 保健指導・フォローアップの充実		

3. 生活習慣病予防のための地域の基盤づくり		
【手軽に自分でできる健康チェック】 ・身近な健康チェックができると良い（太海）	【手軽に自分でできる健康チェックで きる環境整備】 ・公民館などに身長計・握力計・血圧計 があると良い（太海） ・ガンの原因を伝えて欲しい（大山）	太海地区 大山地区
【健康づくりに関する地域の声】 ・健康づくりについて地域の声を聞くこ とができない（太海）	【健康づくりに関する地域の声の反映】 ・サロンに出向いて課題を聞いたほうが 良い（太海）	

■まとめ

課題としては、総合検診等の健康診断の受診率の低さに対する意見が多く挙げられました。解決策のアイデアでは、検診受診の勧奨や、健診を受けやすい環境づくりなどによる受診率向上のための意見などが挙げられています。

8 地域連携・協働による健康づくりの推進

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. 市民総ぐるみ運動の展開		
【高齢者のみ世帯の増加】 ・独居老人及び老々介護の増加（西条）	【認知症に関する啓発・取り組みの充実】 ・認証症理解に対する啓発運動を（西条） ・認知症サポーターなどの機会研修などを行っているが、今後は小学生・中学生に対しても行っていく（鴨川）	鴨川地区 西条地区
2. 健康づくりに関する情報提供・相談の充実		
【健康づくりに関する相談】 ・病院から薬は沢山もらうが、減らせる方法を知りたい（鴨川）	【健康づくりに関する相談の充実】 ・薬剤師に相談する（鴨川）	鴨川地区
3. 健康コミュニティづくり		
4. 健康づくりの体制づくり		
5. 医療機関や大学との共同事業の推進		
6. 地域保健医療環境の充実		
【鴨川市の介護・医療の状況】 ・国保病院の収支が心配（鴨川） ・医療・福祉に対する支援が手厚いため体調が悪くなってから病院に行くようになっているのでは（江見） ・医療・介護・観光の就業割合が全国平均の2倍（鴨川） ・医療介護が充実している（鴨川） ・介護施設は民間が多い（鴨川）	【国保病院の維持・存続】 ・国保病院は、料金も通いやすい値段なので残してもらいたい（田原）	鴨川地区 田原地区 江見地区

■まとめ

課題としては、独居老人及び老々介護の増加への不安や、地域保健医療環境についての意見が挙げられました。解決策のアイデアでは、認知症の理解の促進、薬剤に関する相談、国保病院の存続などに関する意見が挙げられています。

3

地域福祉計画関連の意見まとめ

出された意見を体系ごとに分類した結果を下記に示します。

1 市民一人ひとりが主役の地域づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1.誰もが主役		
【福祉の意識】 ・福祉に対する住民の意識が低い(主基) ・福祉のあり方を考えていく必要がある(大山) ・転入者は福祉をどう考えているか(大山)	【福祉意識の啓発】 ・福祉についてもっとPRすべきでは(主基) ・幼少教育の中で福祉教育に取り組む(曾呂) ・これからは福祉の分野も地域ぐるみでできるようにしていきたい(太海) ・無理に克服せず、お互いに認め合う事(天津) ・福祉と健康の融合を進め、教員・役所OBにも貢献してもらう(主基)	主基地区 曾呂地区 天津地区 太海地区 大山地区
2.権利が守られる		

■まとめ

課題としては、福祉に対する住民の意識の低さが挙げられ、それに対する解決策のアイデアとして、福祉に関するPRによる福祉意識の向上への取り組みに関する意見などが挙げられています。

2 ふれあい、ささえあいのある地域づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1. ささえあう意識が根付く		
【地域における支え合いや福祉の意識】 - 福祉意識の醸成が必要（主基） - 地域のきずなづくりが必要（天津） - 福祉の意味が広すぎて具体性がない（太海） - 助け合いの精神が廃れている（太海） - 太海浜はお互い声掛け合い道端で話し合える（太海） - 地域の繋がりが薄い（太海） - 地域の支えあい社会も難しくなってきた（西条） - 人間関係のもつれがお互いに支え合い意識にマイナスに働く（西条） - 家族の支援が頼れない人が多く、家族関係の希薄化している（天津） - コミュニティが形骸化しているため、地域の絆づくりや、地域包括ケアのしくみづくりが必要（西条）	【ささえあいの意識の醸成】 - 今ある隣組などの支えあいのつながりを続けていきたい（太海） - 福祉意識を醸成させる（西条） - もっと開かれたコミュニティの育成を（主基） 【地域組織の強化】 - 組織の力を高める（西条） - 助け合いのしくみを集落内に限らず、集落をまたぐなど、より広い範囲での再構築を行う（西条） - 地域づくりには老人会が重要（東条） - 自治会組織の充実（田原） - 移住者が空き家を改修して住んでいる。支援・紹介し自治会に入ってもらおう（曾呂）	主基地区 曾呂地区 東条地区 西条地区 吉尾地区 江見地区 田原地区 太海地区 天津地区
【自治会組織】 - 隣組（自治会）に入っていない人がいる（西条） - 高齢化のため、自治会組織から抜けた人が出てきている（江見） - 新住民は自治会組織に加入したがない（江見） - 隣組（市政協力員）の参加が低下している（東条） - 寄付を集めているだけということで自治会を脱退する人や、役を行えないとのことで抜ける人もいる（東条） - 新しい人が入らない、入らなくても済んでしまっている、高齢化で脱退する人もいる（田原） - 自治会への加入率が低い（西条） - 持ち家の人は加入する人が多い（東条） - 自治会組織に福祉分野が入っていない（太海）	【情報提供の強化】 - 情報をスムーズに行き渡らせることができるようにする（西条） - 民生委員だけでなく、区長・組長・菜の花サポーターなどが情報を知らせるしくみづくりが必要（太海）	
【地域の交流・コミュニティ】 - 新住民との交流が難しい（東条） - 地域の交流が必要（東条） - 新住民との接点がない（田原） - 新住民が受け入れてもらえていないコミュニティの不活発な状況（西条） - 県営住宅の人との関わり（西条） - アパート内の連携がない（西条） - 独居老人の地域参加促進（東条）		

一人暮らしの40～50代の方への支援がしづらく、行事以外の交流がない（吉尾）		
2.地域で気軽に交流		
【地域で気軽に集まれる場】 - サロン活動を実施することで、高齢者の楽しみ・閉じこもり予防になっている（江見） - 男性のサロン参加者を増やしたい（主基） - 民協で基幹サロン作りを進めている（西条） - 三世代交流できるサロンを設置して欲しい（東条） - 地域住民で気軽に集まって話し合える場所が欲しい（江見） - サロンの問題点は地域で差がある（江見） - 天津サロンは7カ所あるが男性が少ない（天津） - サロン活動が盛んになってきている（天津） - 地域の人達の交流の場について考えたい（江見） - 男性が出やすくなる魅力をいかに作り出すか。ボランティアで支援する活動の1つとしてサロンがあっても良いのでは（天津） - サロン活動が活発。情報収集したり、体操などで健康増進に寄与している（天津） - 地域に声掛けしている（小湊） 【身近で集まりやすい場づくり】 - 移動手段の問題で、サロンに来たくても来られない人は、近くでも高齢者が歩いてくるのは難しい（主基） - 本当に出て来られない人をどうするか（江見） - サロン会場周辺の人しか出て来られない（江見） - サロン集会活動・参加できない人への配慮（江見） - サロンは細かい地域で行っていて、人が集まってきている（大山） - 足の確保ができると良い（江見） - 地域が広く、移動手段がない。サロンに行くのも大変（大山） - いろいろなことを市民で話し合える場を日頃から作り、市政に伝える場所を作る（主基） - 地域コミュニティの希薄化、核家族化が進んでいる（西条） - 集会場の維持が困難、集会場がない場所もある（田原）	【サロンへの参加促進】 - サロンを男性に紹介する（主基） - 若い人が来たら誘う（西条） - 交流の場を作る、声掛けしていく（西条） - 民生委員の声掛け運動（東条） - 新住民との声の掛け合い。お祭り等をきっかけにする（東条） - 老人会へ入会しやすいシステムを作る（曾呂） - なるべく多くの高齢者に外に出てもらう（小湊） 【交流の場への参加しやすさの向上】 - サロン会場へ送迎して欲しい（主基） - サロン事業を区毎に開催する（主基） - 江見幼稚園をサロンの場として使わせてもらいたい（江見） - 旧江見小、江見公民館を活用してはどうか（江見） - 集会所の改修（トイレ、ウォシュレット）など、集まりやすい場所づくりを行う（西条） - 集会所の改修や改修のための補助を行う（田原） 【新たな交流の場の創出】 - 新住民と交流出来る場所を作る（田原） - 元気で働けるサークルを作る（天津） - 高齢者の集まる場所を提供する。サポーター、区長、社協も協力する（大山） - 移住者とうまくやっていければ、良いのでは（大山）	主基地区 曾呂地区 西条地区 田原地区 東条地区 江見地区 天津地区 小湊地区 大山地区

【その他地域の交流の状況】 ・今回の座談会の参加者が少ない（江見） ・デイケア等の参加に男性が少ない（天津） ・お寺の集まり、神社の集まりも多い（小湊） ・老人会へ入る人が少ない（曾呂） ・昔は定期的な集まりがあったが、現在はなくなっている（大山）		
3.担い手を育む		
【担い手不足】 ・若い人が少ない（鴨川） ・消防団の後継者不足（主基） ・担い手不足（主基） ・地域福祉の担い手が少ない（江見） ・後継者がいない（江見） ・役員になる人がいないので、年齢で役員を決めている（吉尾） ・漁業の開発・活性化をしてほしい（鴨川） ・社協役員メンバーの高齢化（主基） ・2025 年問題、市では安心な状況と聞いているが、人材育成に取り組む必要がある（曾呂） ・高齢化が進み、支える人がいない（大山） ・農業があっても人が集まりにくい（大山）	【担い手の発掘・育成】 ・民生委員、老人会、社協の有効活用（西条） ・若い人へ向けた人材育成対策が必要ではないか（江見） ・区長・組長をどう巻き込んでいくのか。学生との交流も必要（江見） ・認知症サポーター育成（西条） ・社協活動・福祉サポーターの育成・養成（主基） ・福祉を支える人材育成、若い人のスキルアップなどに心がける（江見） ・後継者育成研修を行う（江見）	鴨川地区 主基地区 西条地区 吉尾地区 江見地区 天津地区 大山地区
【元気高齢者の活用や高齢者の雇用】 ・高齢者の枠組みを 65 歳で区切るのとはなぜか（天津） ・高齢化率も高いが、元気な方も多い（大山） ・社会貢献のために高齢者が活動すれば、健康にも繋がるが、若い人の就労の場が減ってしまう懸念もあるので（天津）	【元気高齢者の活用や高齢者の雇用】 ・高齢化を嘆くのではなく、元気高齢者が頑張ればよい（主基） ・元気な高齢者を鴨川へ呼び込み、働きの確保をする（鴨川） ・定年を 65 歳としてはどうか（天津）	
4.福祉活動が活発		
【地域内の連携の状況】 ・民生委員、給食サービス等の社協活動、コンビニ宅配など、ささえあいのしくみが確立している（吉尾） ・小湊、民生委員、地区社協で協働がうまくいっていない（小湊） 【福祉活動の状況】 ・ボランティアをお願いしても協力してくれる人が少ない、どの様にしたら協力してくれる人が増えるのか（鴨川） ・ボランティアは、出来る人がいる時に言うことができるものなので、組織化はなじまないのでは（主基） ・市老連へ入会者はいるが、地区老人会入会者が少ない（曾呂）	【地域内の連携について】 ・道路などのハード面だけでなく、健康福祉や委員会を、区の中に立ち上げて取り組むなど、ソフト面の重視も必要。社協と協力する。目的型だけでは足りない（大山） ・組織の支え合いが必要（大山） ・自治組織や社協による配食を行う（江見） ・金融機関、コンビニ、郵便局等と協定を結んでいく（江見） 【地域活動の活発化】 ・介護サポーターを通して引きこもった高齢者を外へ連れ出す。小湊小で「元気で鯛祭り」を行っている（小湊） ・花壇の管理や高齢者が楽しめる会にしたい（曾呂）	鴨川地区 主基地区 吉尾地区 曾呂地区 江見地区 小湊地区 大山地区

	【新たなシステムの検討】 • ボランティアポイントの導入の検討を（主基） • ボランティアは好きな人だけがやっていくだけでなく、ポイントなどの形で後に残せるなど、地域で形に残すシステムがあるといい（主基） • ボランティア活動をきちんと評価してくれるようなしくみがあるとよい（主基） • さまざまな自治体を参考にする（鴨川）	
--	--	--

■まとめ

課題としては、地域におけるささえあいの意識の低下、自治会組織の加入者の低下、地域での交流の減少、サロンなどの地域活動に参加しない人や、したくても参加できない人についての支援の必要性、若い世代の担い手の不足、地域内の組織間連携の不足などについての意見が多く挙げられました。解決策のアイデアでは、誰もが地域活動へ参加しやすい環境づくりや、地域活動の担い手づくり、特に若い世代や男性の参加者を増やす魅力づくり、元気高齢者の地域活動への活用な、サロンなどの現在の地域の身近に集まれる場の有効な活用などの意見が挙げられています。

3 いつまでも安心して暮らせる地域づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用のアイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1.生活のしづらさを軽減		
【移動手段の問題】 ・買い物が難しい（吉尾） ・買い物代行サービスより自分の目で見て買いたいという思いがある（吉尾） ・移動手段の問題について不安がある（主基） ・コミュニティバスのルートについて検討が必要（主基） ・高齢化による買い物困難者が増えている（東条） ・食品の買い物ができない（太海） ・買い物に困っている。地元商店がなくなり、スーパーに行くことができない。そこまで福祉で支えるのか（太海） ・車がないと生活しづらい（曾呂） ・買い物難民が多いので支え合いが必要（大山） ・大山の高齢化率は高いが、買い物支援がある（大山） ・運転免許がなくなるのが心配（東条） ・通院の足がない、バス停も遠く、通院に困る（吉尾） ・コミュニティバスの本数が少ない。利用者も少ない（天津） ・今後、運転ができなくなったら、買い物の便利な市街地で安いアパートに住むしかない（曾呂）	【移動手段の改善】 ・コミュニティバスのルートの検討（主基） ・コミュニティバスの運行（曾呂） ・コープの利用、買い物サポートを活用する（吉尾） ・本人のニーズにあったサポート活動をさぐっていく必要がある（吉尾） ・地区に1つは買い物できる店があると良い（太海） ・高齢者に割引システムがあっても良いのでは（天津） ・コミュニティバスは人数によって取り扱いを検討してはどうか（天津） ・免許証を返上すれば、交通バスが半額になる制度などを検討してはどうか（天津） ・車を借りることができる、買い物の支援があるとよい（大山） ・コミュニティバスの小型化、活用して交通の方法を考えて欲しい（大山） ・生活応援サポート制度を充実させる（吉尾） ・商店街が近くにある高齢者の住居を市に検討してほしい（曾呂）	鴨川地区 主基地区 東条地区 田原地区 吉尾地区 太海地区 曾呂地区 天津地区 大山地区
【生活環境の問題】 ・商店が少ない（鴨川） ・道路が整備されていない（鴨川） ・道路環境が悪い（曾呂） ・街灯を増やして欲しい（主基） ・草刈りをする人がいない（田原） ・子育て環境（公園・児童館）が少ない（東条） ・生活できる場所に、鳥獣が多くなっているが対策がない。注意喚起のみになっている（大山）	【生活環境の改善】 ・自治会へ相談する（田原） ・できるだけ生活に便利な仕組みづくりが大切（曾呂）	

2.地域で見守り活動が盛ん		
【認知症の問題】 - 認知症の方の徘徊が増えている（西条） - 認知症の方が増えている。帰り道がわからなくなるなど、早期発見が必要（東条） - 認知症の方や独居老人が多く、夏は熱中症などが心配（吉尾） 【見守り活動における課題】 - 自治会に入っていないと、安否確認もできない（田原） - 見守りにくい家があり、不審者と思われる可能性がある（吉尾） - 昔からの見守り機能がなくなっている（吉尾） - 見守りで気にかけてケースのその後の情報が入らず、所在の確認ができない（太海） - 切れ目のない福祉・見守りあいが大切（曾呂） - 見守り体制が弱い。把握しきれていない。地域組織の弱体化（天津） - 助け合いが必要。ケガや病気をすると引きこもりの原因にもなる（天津）	【見守り活動の推進】 - 独居高齢者の方への配食行う。小湊でボランティア 20 人、もう少し増えると良い。毎月 130 食作っている。民生委員にも声をかけてボランティア 30 人（小湊） - 独居老人へお弁当を月に 1 回配達する（小湊） 【見守り体制の構築】 - 認知症の方に目印をつけ分かるようにしておく（西条） - 市の職員が自治会へまずは入る、基盤をしっかりとる（田原） - 総合的な見守りネットワークを確立する（吉尾） - 見守り体制を構築する（吉尾） - 新しい見守り体制や情報支援を行うシステム化・ネットワーク化（吉尾） - 個人情報の問題もある。独居の人が引越したり、入院・死亡などの情報が入りやすい仕組みづくりを（太海） - 近所にいる民生委員を活用（天津） - 認知症の方に GPS などの追跡システムを身につけてもらうなどして、いざという時に、どこにいるのか判るようなくみづくりを（西条）	西条地区 田原地区 東条地区 吉尾地区 太海地区 曾呂地区 天津地区 小湊地区
3.孤独死や虐待、家庭内での暴力（DV等）がない		
【高齢者や子ども、障害者の現状】 - 独居老人への援助者の関わり方についての課題がある（主基） - 一人暮らしや 2 人世帯の生活困窮者が増え、一人で悩み悪化してしまう（天津） - 子どもが他に移り、一人になる不安がある（曾呂） - 高齢化による環境の悪化が心配（主基） - 子が親の面倒を見ることが難しいケースがある（田原） - 独居老人が増えている（太海） - 寝たきり、引きこもりが増えている（太海）	【孤独死や虐待、家庭内暴力への対策】 - 市で状況確認を行う（太海） - 予防運動を今よりも拡充し、家に入り込んで外に出す方策を（太海） - ネットワークづくりをする（吉尾） - 生活支援より、生活資金のサポートをしてほしい（天津） - 家族構成の改善、独居老人を作らないように子どもが通勤できれば、同居できる（田原）	主基地区 曾呂地区 田原地区 太海地区 吉尾地区 天津地区
4.災害がおきても安心して避難		
【災害に対する不安】 - 鴨川保育園の津波被害が心配（鴨川） - 津波が怖く、避難場所まで行けるかわからない（鴨川） - 不自由な方への津波災害対策が必要（天津） - 津波の訓練を昼間に行うと若い男性が少ない（天津） - 緊急通報システムが故障していたが、すぐ対応してくれた（東条）	【災害対策】 - 小学校でのキャンプ、子どもたちの自炊などを通して災害時の対策につなげる（西条） 【防災組織の強化】 - 市の窓口でも新転入者に対して勧誘をする（東条） - 市政協力員の仕事（集金など）のため、加入を拒むことが多いが、防災組織のためにもぜひ増やして欲しい（東条）	鴨川地区 西条地区 東条地区 天津地区

5.地域の活性化と安定的な自主財源の確保		
【募金・寄付】 ・寄付金などの理解への周知が図られていない（西条） ・赤十字と社協の集金を一括にまとめられないか（田原） ・募金の価値が伝わっていない（田原）	・寄付金などの理解への周知をする（西条）	田原地区 西条地区

■まとめ

課題としては、移動手段や生活環境に関する不安や、高齢者などの地域での見守りの必要性に関する意見が多く挙げられました。解決策のアイデアでは、コミュニティバスのルートの検討や、高齢者などのへの見守りシステム、情報支援を行うネットワークづくり、災害時の支援が必要な方へのサポートに関する意見が挙げられています。

4 誰もが生活しやすい地域づくり

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
【取り組みの方向】全体意見		
1.必要な情報が行き届く		
【福祉に関する情報提供や周知・啓発】 ・回覧板が回らない（田原） ・自治会に入っていない高齢者への情報提供の対応が必要（曾呂） ・今までの福祉計画の進捗状況と結果について知りたい（主基）	【福祉に関する情報提供や周知・啓発】 ・情報の周知について集落でバックアップしていく（田原） ・情報が行き渡るようなシステムを構築する（曾呂）	主基地区 田原地区 曾呂地区
2.困ったらすぐに相談		
【福祉に関する相談】 ・体調を崩した時に介護サービス等について、どこに相談に行けばよいか知りたい（鴨川） ----- 【悪質商法に関する現状】 ・高齢者を狙う悪質商法被害の横行（西条）	【福祉に関する相談】 ・体調を崩した時に介護サービス等については、総合相談センターに相談する（鴨川） ・退院後の相談などのサポートも行う（東条） ・24 時間相談を活用していく（大山） ----- 【悪質商法への対策】 ・独居老人への詐欺被害などについて注意を呼びかける（東条） ・消費者センターへ相談したり、鴨川警察へ悪質商法被害防止のための講演依頼を行う（西条）	鴨川地区 西条地区 東条地区 大山地区
3.必要な人が福祉サービスを受けられる		
【子育て支援】 ・子どもの出生率が低い（鴨川） ・未就学児童のいる家庭への支援内容の充実（東条） ・子どもの交流の場作りが必要（曾呂） ・保育園が少ない。二人目を妊娠した時に、一人目を預かってもらえなかった（天津） ・保育園をもっと利用しやすく（天津） ・保育所が少なくなってきた（天津） ・子育てがしやすいまちにしたい。働きながら、子育てができる環境を若い人たちは希望している。認定こども園の必要性（天津） ・子育て環境を充実させて欲しい(天津) ----- 【高齢者福祉】 ・介護保険料が高い（東条） ・介護サービス、十数年前と比べると入居に係る費用が倍近くになっている（曾呂） ・デイサービスで少し状態が良くなってきた（天津）	【子育て支援の充実】 ・婚活イベントの実施、第三子お祝い金、子育て支援など充実する（鴨川） ・子育て相談施設の活用。3 才児だけを集めたイベントや、仲間づくりの場を提供している。これらを拡大・分散していきたい。また、病児保育・認定こども園にも取り組んでいく（東条）	鴨川地区 曾呂地区 東条地区 曾呂地区 天津地区

■まとめ

課題としては、情報提供や相談体制、各種福祉サービスに関する不安や課題に関する意見が多く挙げられました。解決策のアイデアは、情報提供の充実、相談体制の充実、子育て支援の充実などの意見が挙げられています。

4

その他意見まとめ

出された意見をカテゴリーごとに分類した結果を下記にまとめました。

1 まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

■主な意見

現状や課題、 良い取り組み事例など	問題解決・事例活用アイデア	意見が上がった 地区
1. 人口減少について		
・消防法の関係で家が建てられず、人口が都会へ流出してしまう（鴨川） ・人口減少が不安（天津） ・すでに人口が減ってきている（主基） ・人口減少に対する具体的な対策が必要（主基） ・消滅都市が増えている社会潮流の中、鴨川市は特別な状況にある（主基） ・集落が過疎化してきている（西条） ・若い人が少なく、少子高齢化が進んでいる（吉尾） ・高齢化の問題がある（江見） ・人口増への取り組みが必要（曾呂） ・人口減・世帯数増の原因は、核家族化が進んできたためではないか（天津） ・勝浦市の人口が2万人きっている。減っている原因がわからない（大山） ・人口を増やすことが大事。若い人を呼び込む必要がある（大山） ・高齢化率が高く高齢者が福祉を支え恩恵を受けている。働いている人は、生活で精一杯である（大山） ・高齢化により、税収減が将来的に懸念される（西条） ・目標出生率（2.1）は現実的な設定ではないのでは（主基） ・母子家庭の転入が多い（東条） ・出生率が低い（吉尾） ・子どもが少ない、周囲に同年代の子どもが居ない（曾呂） ・若い人が出ていっており、高齢者が増えている（大山）	・若い世代が長く住める地域、観光に頼らない就労の場が必要。アクセスが良いが素通りしてしまい宿泊者も減っている（天津） ・若者向けの住居・就労場所の確保が必要（天津） ・人口を保つために、逆算して計算していく（主基） ・全国区の数値を参考にするよりも鴨川市のデータ分析が必要（小湊） ・今ある資源の活用をしていく（天津） ・観光の活性化させ人口増につなげる（主基） ・日本版 CCRC の導入（主基） ・日本版 CCRC の取り組みが必要。都会から移住してくる人が期待されている（田原） ・他市から移住してもらい地域を活性化していく。棚田でPRし、空き家を利用して宿泊できるようにして農業も活性化させたい（棚田10周年を盛り上げていく）（曾呂） ・リタイヤしたサラリーマンが快適に暮らせる場所を作り、元気な高齢者を呼ぶことで、地域の消費が増え、仕事ができ、若い人も入ってくることを期待している。プラチナタウンに関しては具体的な話をこれからディベロッパ含め進めていく（田原） ・首都圏へ安定して通勤できるように交通を整える（田原） ・鴨川は医療・観光の街である地の利を活かす（田原） ・高速バスを使って他県から人を呼ぶ（大山）	鴨川地区 主基地区 西条地区 田原地区 吉尾地区 江見地区 曾呂地区 天津地区 小湊地区 大山地区

2. 空き家対策について		
・空き家が多くなっている。相続人がいればよいが、草刈りなどの管理は誰がやるのか。使用していない会社の寮が老朽化しており、危険がある（江見） ・空き家対策について、危険な場所があり、対策が難しい面もある（江見） ・空き家の火事を心配している、また、不法侵入者がいる（太海） ・空き家が増えている（曽呂） ・空き家がたくさんある（小湊）	・空き家の活用を考える（曽呂） ・空き家について市へ相談をしていく（江見） ・鴨川市の魅力を見出し、居住者へアピールを積極的に行ってほしい。さらに、空き家の利用に関してしっかりルールを設ける（曽呂） ・古い建物・民宿・日本の家屋を求める外国人観光客が増えている。鴨川も古き良き日本の家屋を建てて、観光客を呼びこむことはできないか（田原） ・コンテナの活用や、市の補助の拡大を行う（田原）	曽呂地区 田原地区 江見地区 太海地区 小湊地区
3. 子ども・若者支援について		
・安定した雇用の創出が難しい（鴨川） ・介護従事者の給与が安いのでは（鴨川） ・女性の就業割合が高いので、出産・子育てへの支援が必要（鴨川） ・若い人が働ける場所がない（曽呂） ・就労が、医療・福祉・観光分野のみに限られる現実がある（天津） ・若い人は雇用とお金がないと定住しないので、資源を活用した稼げる農業を（小湊） ・仕事ができる環境づくりなど、同時にやっていかないと地域づくりはできない（大山） ・仕事がなく、子どもたちを呼べない、しかし企業を呼ぶのも難しいのではない（田原） ・子ども・若者を呼ぶにも仕事が必要（吉尾） ・独身者同士を結びつけるような、出会いの機会が少ない（吉尾） ・結婚・育児の意識が低く、若い世代の価値観の違いがある（天津） ・夢などがあると、若い人たちにとって地元の大学だと選択肢が少ない（天津） ・世代間の価値観の相違（天津） ・若い世代の意識が、結婚・育児への関心が低い（天津） ・肉食系より草食系の人間が増えているのでは（大山） ・大山への移住者を増やしたい（大山）	・休耕地を活用し、若い方の就労の場にしたらどうか。収入を確保できるシステムが必要（天津） ・働きやすい環境づくり（鴨川） ・新しい雇用を作る（大山） ・障害者に対する働く場所の確保（鴨川） ・産業を作るべき。近辺の資源を活用する。海藻や寺など（小湊） ・雇用をいかに作り出すか（主基） ・子ども同士交流できる機会が欲しい（曽呂） ・恵まれた自然環境を活用する（大山） ・子どもを多く産んでくれた人への経済的支援をする（吉尾） ・婚活事業を増やす（曽呂） ・鹿駆除なども早く行うべき。庭にヒルなどがいると、若い世代は出てしまう（大山） ・使っていない土地を若者の定住化へ活用する（天津） ・婚活事業は高齢者が対象でも良いのでは（曽呂）	鴨川地区 主基地区 田原地区 吉尾地区 曽呂地区 天津地区 小湊地区 大山地区

5. 施設のあり方について		
- 施設ごとの時間の延長をしてほしい（主基） - 運動器症候群の予防のためのロコモ施設が欲しい（田原） - 幼稚園・体育館・旧江見小学校の活用方法の検討が必要（江見）	- 運動器症候群の予防のためのロコモ施設を身近に設置して欲しい（田原） - 幼稚園・体育館・旧江見小学校を、健康体操などの場所に活用できると良い（江見） - 空き校舎の活用法の検討・提案していく（小湊） - 学校を地域活動に活用していく（曽呂） - 田の真ん中にグループホーム作るなどの取り組みを検討してはどうか（天津）	主基地区 曽呂地区 田原地区 江見地区 天津地区 小湊地区
6. 行政からの支援について		
- 地域で原則頑張るが、行政からの協力が無いのは困る（吉尾） - 助成金が減った（天津）		吉尾地区 天津地区
7. 健康福祉推進計画の策定について		
- 計画を作ることだけが目的になっていないか（主基） - 前期の課題問題点・評価を出すことが重要（主基） - 第一期の評価がないのに、二期を考えてもどうなのか（大山）	- 計画の取り組みで、成果が出ているなら、そこからより充実していく方策を考えるきっかけにする（大山） - 課題などについて福祉計画などで分析して計画に盛り込む（大山）	主基地区 大山地区
8. 地区座談会について		
- 座談会の参加者が増えれば、アイデアも増える（田原） - 座談会の参加者が少ない（小湊）		田原地区 小湊地区
9. その他		
合併にはメリットもデメリットもあった（曽呂）		曽呂地区

■まとめ

課題としては、人口減少問題、空き家対策、子育て支援や若者への支援、施設のあり方など、多岐に亘って意見が多数挙げられました。解決策のアイデアでは、今ある資源を生かした人が集まる魅力づくり・産業・雇用の創出や、空き家の定住促進への活用など、市全体として取り組むべき大きな視点での意見が多岐に渡って挙げられています。

Ⅲ 地区ごとの実施結果

第 2 期鴨川市健康福祉推進計画策定に向けた地区別座談会実施結果報告書

1. 鴨川地区

日時	8月1日（土） 午後1時30分～午後3時
場所	中央公民館
参加者数	20名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. ライフステージに応じた健康づくり	・高齢者の健康寿命を延ばす方法がわからない（鴨川）	・運動をすることが健康づくりではなく、自分の居場所・役割を持つことが健康づくりにつながると思う ・ラジオ体操を皆で集まってやってみる ・健康管理にお金がかからない工夫が必要 ・子どもに健康寿命について考える場所があるとよいのでは ・ジュニアリーダー講習会の夜、パンを食べさせることを止めたら、体の調子が良くなったことがあり、肥満防止につながる（ ・ピンピンコロリ運動を推進する ・元気な老人が暮らせるまちづくりに向け、介護する人・食事を作る人などの人材を育成する
3. 身体活動・運動による健康増進	・目標を持ってリハビリを行うことが必要 ・運動できる場所が減っている	・さまざまな自治体を参考にする
8. 地域連携・協働による健康づくりの推進	・病院から薬は沢山もらうが、減らせる方法を知りたい ・医療・介護・観光の就業割合が全国平均の2倍 ・介護施設は民間が多い ・医療介護が充実している ・国保病院の収支の問題が心配	・認知症サポーターなどの機会研修などを行っているが、今後は小学生・中学生に対しても行っていく ・薬剤師に相談する

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-3. 担い手を育む	・若い人が少ない ・漁業の開発・活性化をしてほしい	・元気な高齢者を鴨川へ呼び込み、働き手の確保をする
2-4. 福祉活動が活発	・ボランティアをお願いしても協力してくれる人が少ない、どの様にしたら協力してくれる人が増えるのか	・さまざまな自治体を参考にする
3-1. 生活のしづらさを軽減	・商店が少ない ・道路が整備されていない	
3-4. 災害がおきても安心して避難	・鴨川保育園の津波被害が心配 ・津波が怖く、避難場所まで行けるかわからない	
4-1. 必要な情報が行き届く	・体調を崩した時に介護サービス等について、どこに相談に行けばよいかわかりたい	・体調を崩した時に介護サービス等については、総合相談センターに相談する
4-3. 必要な人が福祉サービスを受けられる	・子どもの出生率が低い	・婚活イベントの実施、第三子祝い金、子育て支援など充実する

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少について	・消防法の関係で家が建てられず、人口が都会へ流出してしまう	
3. 子ども・若者支援について	・安定した雇用の創出が難しい ・介護従事者の給与が安いのでは ・女性の就業割合が高いので、出産・子育てへの支援が必要	・働きやすい環境づくり ・障害者に対する働く場所の確保

2. 主基地区

日時	8月2日（日） 午前 10 時 30 分～正午
場所	主基公民館
参加者数	33 名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. ライフステージに応じた健康づくり	- 健康づくりの取り組みへの不満 60歳未満で病気等を患っている方(特に一人暮らしの方)が心配なく暮らせる援助が必要 - 高齢化による気力・体力の低下を止めたい - 気力が維持できる方法を知りたい	
2. 栄養・食生活による健康増進	食事について、今後独居など増えてくると栄養面の問題や深刻な面も出てくるのではないかな	高齢者への給食サービスを行う
3. 身体活動・運動による健康増進	女性はフィットネスクラブ等の運動に自主的に参加しているが、男性は仕事以外に運動する機会が少ない	
4. 休養・こころの健康づくり	精神・メンタルなどについての施設や雇用の場が少ない	

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1-1. 誰もが主役	福祉に対する住民の意識が低い	- 福祉についてもっとPRすべきでは - 福祉と健康の融合を進め、教員・役所OBにも貢献してもらおう
2-1. ささえあう意識が根付く	福祉意識の醸成が必要	もっと開かれたコミュニティの育成を
2-2. 地域で気軽に交流	- 男性のサロン参加者を増やしたい - 移動手段の問題で、サロンに来たくても来られない人は、近くでも高齢者が歩いてくるのは難しい - いろいろなことを市民で話し合える場を日頃から作り、市政に伝える場所を作る	- サロンを男性に紹介する - サロン会場へ送迎して欲しい - サロン事業を区毎に開催する
2-3. 担い手を育む	- 消防団の後継者不足 - 担い手不足 - 社協役員メンバーの高齢化	- 社協活動・福祉サポーターの育成・養成 - 高齢化を嘆くのではなく、元気高齢者が頑張ればよい

2-4.福祉活動が活発	・ボランティアは、出来る人がいる時に 行うことができるものなので、組織化は なじまないのでは	・ボランティアポイントの導入の検討を ・ボランティアは好きな人だけがやって いくだけでなく、ポイントなどの形 で後に残せるなど、地域で形に残す システムがあるといい ・ボランティア活動をきちんと評価して くれるようなしくみがあるとよい
3-1.生活の しづらさを 軽減	・移動手段の問題について不安がある ・コミュニティバスのルートについて 検討が必要 ・街灯を増やして欲しい	・コミュニティバスのルートの検討
3-3. 孤独死 や虐待、家庭 内での暴力 (DV 等) が ない	・独居老人への援助者の関わり方につ いての課題がある	
4-1.必要な 情報が行き 届く	・今までの福祉計画の進捗状況と結果 について知りたい	

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少について	・すでに人口が減ってきている ・人口減少に対する具体的な対策が必要 ・消滅都市が増えている社会潮流の中、鴨川市は特別な状況にある ・目標出生率（2.1）は現実的な設定ではないのでは	・人口を保つために、逆算して計算していく ・観光の活性化させ人口増につなげる ・日本版 CCRC の導入
3. 子ども・若者支援について		・雇用をいかに作り出すか
4. 施設のあり方について	・施設ごとの時間の延長をしてほしい	
6. 健康福祉推進計画の策定について	・計画を作ることだけが目的になっていないか ・前期の課題問題点・評価を出すことが重要	

3. 西条地区

日時	8月3日（月） 午後7時～午後8時30分
場所	ふれあいセンター
参加者数	17名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.ライフステージに応じた健康づくり		・もっと健康についてのPRを ・年代別に働いている方に伝える
3.身体活動・運動による健康増進		・健康クラブを開催する。土日開催、スポーツクラブとタイアップなど
7.生活習慣病対策の充実	・総合検診の受診率が伸びない	・理由を受診者の立場から考えさせないといけない。「親より早く死なないために」など
8.地域連携・協働による健康づくりの推進	・独居老人及び老々介護の増加	・認知症理解に対する啓発運動を

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-1.ささえあう意識が根付く	・地域の支えあい社会も難しくなってきた ・人間関係のもつれがお互いに支え合い意識にマイナスに働く ・隣組（自治会）に入っていない人がいる ・自治会への加入率が低い ・コミュニティが形骸化しているため、地域の絆づくりや、地域包括ケアのしくみづくりが必要	・福祉意識を醸成させる ・組織の力を高める ・助け合いのしくみを集落内に限らず、集落をまたぐなど、より広い範囲での再構築を行う（西条） ・情報をスムーズに行き渡らせることができるようにする
2-2.地域で気軽に交流	・民協で基幹サロン作りを進めている ・地域コミュニティの希薄化、核家族化が進んでいる	・若い人が来たら誘う ・交流の場を作る、声掛けしていく ・集会所の改修（トイレ、ウォシュレット）など集まりやすい場所づくりを行う
2-3.担い手を育む		・民生委員、老人会、社協の有効活用 ・認知症サポーター育成
3-2.地域で見守り活動が盛ん	・認知症の方の徘徊が増えている	・認知症の方にGPSなどの追跡システムを身につけてもらうなどして、いざという時に、どこにいるのか判るようなくみづくりを

3-4.災害がおきても安心して避難		・ 小学校でのキャンプ、子どもたちの自炊などを通して災害時の対策につなげる
3-5. 地域の活性化と安定的な自主財源の確保	・ 寄付金などの理解への周知が図られていない	・ 寄付金などの理解への周知をする
4-2.困ったらずぐに相談	・ 高齢者を狙う悪質商法被害の横行	・ 消費者センターへ相談したり、鴨川警察署へ悪質商法被害防止のための講演依頼を行う

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少について	・ 集落が過疎化してきている ・ 高齢化により、税収減が将来的に懸念される	

4. 田原地区

日時	8月4日（火） 午後7時～午後8時30分
場所	田原公民館
参加者数	16名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2. 栄養・食生活による健康増進		・学校の給食を通して、子どもに食事の教育ができると良い
7.健康診断、高齢者だと時間通りに行くことができない	・特定健診の受診率が高くなれば、本人のためにもなり医療費も抑えられるのでは ・健康診断、高齢者だと時間通りに行くことができない	
8.地域連携・協働による健康づくりの推進		・国保病院は、料金も通いやすい値段なので残してもらいたい

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-1.ささえあう意識が根付く	・新しい人が入らない、入らなくても済んでしまっている、高齢化で脱退する人もいる ・新住民との接点がない	・自治会組織の充実
2-2.地域で気軽に交流		・集会所の改修や改修のための補助を行う ・新住民と交流出来る場所を作る
3-1.生活のしづらさを軽減	・草刈りをする人がいない	・自治会へ相談する
3-2.地域で見守り活動が盛ん	・自治会に入っていないと、安否確認もできない	・市の職員が自治会へまずは入る、基盤をしっかりとる
3-3. 孤独死や虐待、家庭内での暴力（DV等）がない	・子が親の面倒を見るのが難しいケースがある	・家族構成の改善、独居老人を作らないように子どもが通勤できれば、同居できる
3-5. 地域の活性化と安定的な自主財源の確保	・赤十字と社協の集金を一括にまとめられないか ・募金の価値が伝わっていない	

4-1.必要な 情報が行き 届く	・回覧板が回らない	・情報の周知について集落でバックア ップしていく
------------------------	-----------	-----------------------------

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、 課題や困りごとなど、日頃活動をしてい る中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取 り組めるアイデアなど
1. 人口減少 について		・日本版 CCRC の取り組みが必要。都 会から移住してくる人が期待されて いる ・リタイヤしたサラリーマンが快適に 暮らせる場所を作り、元気な高齢者 を呼ぶことで、地域の消費が増え、 仕事ができ、若い人も入ってくるこ とを期待している。プラチナタウン に関しては具体的な話をこれからデ ィベロッパー含め進めていく ・首都圏へ安定して通勤できるように 交通を整える ・鴨川は医療・観光の街である地の利 を活かす
2. 空き家対 策について		・古い建物・民宿・日本の家屋を求め る外国人観光客が増えている。鴨川 も古き良き日本の家屋を建てて、観 光客を呼びこむことはできないか ・コンテナの活用や、市の補助の拡大 を行う
3. 子ども・若 者支援につ いて	・仕事がなく、子どもたちを呼べない、 しかし企業を呼ぶのも難しいのでは ないか	
4. 施設 のあ り方につい て	・運動器症候群の予防のための口コモ 施設が欲しい	・運動器症候群の予防のための口コモ施 設を身近に設置して欲しい
7. 地区座談 会について	・座談会の参加者が増えれば、アイデ アも増える	

5. 東条地区

日時	8月5日（水） 午後7時～午後8時30分
場所	東条公民館
参加者数	27名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2. 栄養・食生活による健康増進	・高齢者より、子育て世代の食生活が心配。子どもの健康の見直しをしてほしい	・食育の取り組みを進める ・地産地消、地場産業の活性化 ・地方の料理を出し合う
3. 身体活動・運動による健康増進	・ウォークラリーがマンネリ化・縮小化しているので、ウォーキングの活性化のためにも一考を	・子どもと一緒にラジオ体操を ・ウォーキングを鴨川市が中心になって取り組むことを希望している
4. 休養・こころの健康づくり		・五感を刺激する自治会の行事（音楽・映画など）への参加を促す
7. 生活習慣病対策の充実	・健康増進は介護予防が重要だが、今までどんな取り組みをしてきたのかわからない	・介護予防サポーター・保健師の協力を得ながら、介護予防講座、健康ウォーキング、ウォーキングマップづくりなど

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-1. ささえあう意識が根付く	・隣組（市政協力員）の参加が低下している ・寄付を集めているだけということで自治会を脱退する人や、役を行えないとのことで抜ける人もいる ・持ち家の人は加入する人が多い ・新住民との交流が難しい ・地域の交流が必要 ・独居老人の地域参加促進	
2-2. 地域で気軽に交流	・三世代交流できるサロンを設置して欲しい	・民生委員の声掛け運動 ・新住民との声の掛け合い。お祭り等をきっかけにする
3-1. 生活のしづらさを軽減	・高齢化による買い物困難者が増えている ・運転免許がなくなるのが心配 ・子育て環境（公園・児童館）が少ない	
3-2. 地域で見守り活動が盛ん	・認知症の方が増えている。帰り道がわからなくなるなど、早期発見が必要	

3-4.災害がおきても安心して避難	・緊急通報システムが故障していたが、すぐ対応してくれた	・市の窓口でも新転入者に対して勧誘をする ・市政協力員の仕事（集金など）のため、加入を拒むことが多いが、防災組織のためにもぜひ増やして欲しい
4-2.困ったすぐに相談		・退院後の相談などのサポートも行う ・独居老人への詐欺被害などについて注意を呼びかける
4-3.必要な人が福祉サービスを受けられる	・未就学児童のいる家庭への支援内容の充実 ・介護保険料が高い	・子育て相談施設の活用。3才児だけを集めたイベントや、仲間づくりの場を提供している。これらを拡大・分散していきたい。また、病児保育・認定こども園にも取り組んでいく

（３）まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少について	・母子家庭の転入が多い	

6. 吉尾地区

日時	8月6日（木） 午後7時～午後8時 30 分
場所	吉尾公民館
参加者数	17 名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.ライフステージに応じた健康づくり	・県ごとに寿命格差がある。良い県を見らなうことが必要 ・健康づくりをする余裕が無い ・労働で体を動かすのは、健康に繋がらない ・核家族で家庭での健康への取り組みができなくなっている	・健康づくりのイベントがあると良い ・サロンが増えていることが健康づくりの一環になっている
2.栄養・食生活による健康増進		・栄養改善や朝食抜きを改善する必要がある
7.生活習慣病対策の充実	・健診受診率が低下している	・近くに来てもらえば、受診率はあがるのでは ・健康意識を高める。モデルを探す。会社で受診したり、通院している人は受けない。病気になったら、それで終わりで良いという考えが出てきた

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-1.ささえあう意識が根付く	・独身で一人暮らしの40～50代の方への支援がしづらい、行事以外の交流がない	
2-3.担い手を育む	・役員になる人がいないので、年齢で役員を決めている	
2-4.福祉活動が活発	・民生委員、給食サービス等の社協活動、コンビニ宅配など、ささえあいのしくみが確立している	
3-1.生活のしづらさを軽減	・買い物が難しい ・買い物代行サービスより自分の目で見て買いたいという思いがある ・通院の足がない、バス停も遠く、通院に困る	・コープの利用、買い物サポートを活用する ・生活応援サポート制度を充実させる
3-2.地域で見守り活動が盛ん	・認知症の方や独居老人が多く、夏は熱中症などが心配 ・見守りにくい家があり、不審者と思	・総合的な見守りネットワークを確立する ・見守り体制を構築する

	われる可能性がある ・昔からの見守り機能がなくなっている	・新しい見守り体制や情報支援を行う システム化・ネットワーク化
4-3. 必要な人が福祉サービスを受けられる		・ネットワークづくりをする

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.人口減少について	・若い人が少なく、少子高齢化が進んでいる ・出生率が低い	
3.子ども・若者支援について	・子ども・若者を呼ぶにも仕事が必要 ・独身者同士を結びつけるような、出会いの機会が少ない	・子どもを多く産んでくれた人への経済的支援をする
5.行政からの支援について	・地域で原則頑張るが、行政からの協力が無いのは困る	

7. 江見地区

日時	8月7日（金） 午後7時～午後8時30分
場所	江見公民館
参加者数	9名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.ライフステージに応じた健康づくり	- 健康づくりに対して日頃から関心が低い - 病気や衰弱になってからでないと、健康に対する意識が生まれないのではないか - 健康に関する意識が低い、健康管理の仕方が悪い - 働くことが健康づくりに繋がることある。病気になっても働ける環境が必要ではないか	健康診断、検診を受けるよう PR をする
8.地域連携・協働による健康づくりの推進	医療・福祉に対する支援が手厚いため体調が悪くなってから病院に行くようになっているのでは	

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-1.ささえあう意識が根付く	- 高齢化のため、自治会組織から抜けてい人が出てきている - 新住民は、自治会組織に加入したがない	
2-2.地域で気軽に交流	- サロン活動を実施することで、高齢者の楽しみ・閉じこもり予防になっている - 地域住民で気軽に集まって話し合える場所が欲しい - サロンの問題点は地域で差がある - 地域の人達の交流の場について考えたい	- 江見幼稚園をサロンの場として使わせてもらいたい - 旧江見小、江見公民館を活用してはどうか
2-3.担い手を育む	- 地域福祉の担い手が少ない - 後継者がいない	- 若い人へ向けた人材育成対策が必要ではないか - 区長・組長をどう巻き込んでいくのか。学生との交流も必要 - 福祉を支える人材育成、若い人のスキルアップなどに心がける - 後継者育成研修を行う

2-4.福祉活動が活発		・自治組織や社協による配食を行う ・金融機関、コンビニ、郵便局等と協定を結んでいく
-------------	--	--

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少について	・高齢化の問題がある	
2. 空き家対策	・空き家が多くなっている。相続人がいればよいが、草刈りなどの管理は誰がやるのか。使用していない会社の寮が老朽化しており、危険がある ・空き家対策について、危険な場所があり、対策が難しい面もある	・空き家について市へ相談をしていく
4. 施設のあり方について	・幼稚園・体育館・旧江見小学校の活用方法の検討が必要	・幼稚園・体育館・旧江見小学校を、健康体操などの場所に活用できると良い

8. 太海地区

日時	8月8日（日） 午前 10 時 30 分～正午
場所	太海公民館
参加者数	13 名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. ライフステージに応じた健康づくり	- 健康づくりは個人の自覚が必要。痛くなってから病院に行くことが多いのでは - 漁業従事者が多い地区であり、定年がなく生涯現役のため健康づくりをする時間がない	ピンピンコロリ運動で個人の健康意識の向上を図る
3. 身体活動・運動による健康増進	健康づくりをきめ細やかに行って欲しい。ウォーキングの奨励、グラウンドゴルフ場をつくる他、子どもと交流することで教育にもなる	温水プールが市営であると良い
7. 生活習慣病対策の充実	- 人間ドックの助成や社会保険からの切り替え条件など、検診関係の情報が不十分 - 健診を受ける人が少ない - 身近な健康チェックができると良い - 健康づくりについて地域の声を聞くことができない	- 人間ドックなども含めて、もっとPRをしてほしい - 公民館などに身長計・握力計・血圧計があると良い - サロンに出向いて課題を聞いたほうが良い

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1-1. 誰もが主役		これからは福祉の分野も地域ぐるみでできるようにしていきたい
2-1. ささえあう意識が根付く	- 福祉の意味が広すぎて具体性がない - 助け合いの精神が廃れている - 太海浜はお互い声掛け合い道端で話し合える - 地域の繋がりが薄い	- 今ある隣組などの支えあいのつながりを続けていきたい - 民生委員だけでなく、区長・組長・菜の花サポーターなどが情報を知らせるしくみづくりが必要
2-2. 地域で気軽に交流	自治会組織に福祉の分野が入っていない	
3-1. 生活のしづらさを軽減	買い物に困っている。地元商店がなくなり、スーパーに行くことができない。そこまで福祉で支えるのか	地区に1つは買い物できる店があると良い
3-2. 地域で見守り活動が盛ん	見守りで気にかけてたケースのその後の情報が入らず、所在の確認ができない	個人情報の問題もある。独居の人が引越したり、入院・死亡などの情報が入りやすい仕組みづくりを

3-3. 孤独死 や虐待、家庭 内での暴力 (DV等)が ない	・独居老人が増えている ・寝たきり、引きこもりが増えている	・市で状況確認を行う ・予防運動を今よりも拡充し、家に入り込んで外に出す方策を
---	--	--

(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2. 空き家対策について	空き家の火事を心配している、また、不法侵入者がいる	

9. 曽呂地区

日時	8月8日（日） 午後1時30分～午後3時
場所	曽呂公民館
参加者数	13名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
3.身体活動・運動による健康増進		・朝にラジオ体操・ストレッチの推進 ・体操などを地区ごとに行う
4.休養・こころの健康づくり	・地域性として農業従事者が多い。健康を考えた時に肉体的疲労などが伴うことが多い	・「農休日」というものを設け、レクリエーションさせるなどの取り組みはどうか ・日帰り旅行などに率先して取り組む
7. 生活習慣病対策の充実	・健診受診率が低い、足の確保が必要なのではないか。行きたくても足がないから行けないことも1つ ・健診受診率の向上と移動手段の確保が課題	・健康寿命、体年齢に係る指標があると良い。体力年齢測定健康講演会実施予定している ・健診などには送迎があると行きやすい

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1-1.誰もが 主役		・幼少教育の中で福祉教育に取り組む
2-1.ささえ あう意識が 根付く		・移住者が空き家を改修して住んでいる。支援・紹介し自治会に入ってもらおう
2-2.地域で 気軽に交流	・老人会へ入る人が少ない	・老人会へ入会しやすいシステムを作る
2-3.担い手 を育む	・2025年問題、市では安心な状況と聞いているが、人材育成に取り組む必要がある	
2-4.福祉活 動が活発	・市老連へ入会者はいるが、地区老人会入会者が少ない	・花壇の管理や高齢者が楽しめる会にしたい
3-1.生活の しづらさを 軽減	・車がないと生活しづらい ・今後、運転ができなくなったら、買い物物の便利な市街地で安いアパートに住むしかない ・道路環境が悪い	・コミュニティバスの運行 ・商店街が近くにある高齢者の住居を市に検討してほしい ・できるだけ生活に便利な仕組みづくりが大切
3-2.地域で 見守り活動 が盛ん	・切れ目のない福祉・見守りあいが大切	

3-3.孤独死 や虐待、家庭 内での暴力 (DV等)が ない	・子どもが他に移り、一人になる不安がある	
4-1.必要な 情報が行き 届く	・自治会に入っていない高齢者への情報提供の対応が必要	
4-3.必要な 人が福祉サ ービスを受 けられる	・子どもの交流の場作りが必要 ・介護サービス、十数年前と比べると入居に係る費用が倍近くになっている	

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. 人口減少 について	・人口増への取り組みが必要 ・子どもが少ない、周囲に同年代の子どもが居ない	・他市から移住してもらい地域を活性化していく。棚田でPRし、空き家を利用して宿泊できるようにして農業も活性化させたい(棚田10周年を盛り上げていく)
2. 空き家対 策について	・空き家が増えている	・空き家の活用を考える ・鴨川市の魅力を見出し、居住者へアピールを積極的に行ってほしい。さらに、空き家の利用に関してしっかりルールを設ける
3. 子ども・ 若者支援に ついて	・若い人が働ける場所がない	・子ども同士交流できる機会が欲しい ・婚活事業を増やす ・婚活事業は高齢者が対象でも良いのでは
4. 施設のあ り方につい て		・学校を地域活動に活用していく
8. その他	・合併にはメリットもデメリットもあった	

10. 天津地区

日時	8月10日（月） 午後7時～午後8時30分
場所	天津小湊保健福祉センター
参加者数	14名

◆座談会の様子





(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
3.身体活動・運動による健康増進	・生き生きとしている運動も含めて楽しみにしている	・「遊ぶ農業」として、健康のため、楽しんで農業するのはどうか
7.生活習慣病対策の充実	・ふれあいセンターになってから、総合健診へ参加する人が少ない	・近くの地域の中で行って欲しい。天津は合併前の方が受診率は高かった。スタッフが足りなければ、地域の住民に協力してもらえば良いのでは ・健診を受けやすい場所にしていく ・総合検診の場所を決めて、細かく対応する ・精度の高い検診を行う。病院と同じ環境にする
8. 地域連携・協働による健康づくりの推進	○保育所が少なくなっている	

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1-1.誰もが主役		・無理に克服せず、お互いに認め合う事
2-1.ささえあう意識が根付く	・地域のきずなづくりが必要 ・家族の支援が頼れない人が多く、家族関係の希薄化している	

2-2.地域で気軽に交流	・天津サロンは7カ所あるが男性が少ない ・サロン活動が盛んになってきている ・男性が出やすくなる魅力をいかに作り出すか。ボランティアで支援する活動の1つとしてサロンがあっても良いのでは ・サロン活動が活発。情報収集したり、体操などで健康増進に寄与している ・デイケア等の参加に男性が少ない	・元気で働けるサークルを作る
2-3.担い手を育む	・高齢者の枠組みを65歳で区切るのはなぜか ・社会貢献のために高齢者が活動すれば、健康にも繋がるが、若い人の就労の場が減ってしまう懸念もあるのでは	・定年を65歳としてはどうか
3-1.生活のしづらさを軽減	・コミュニティバスの本数が少ない。利用者も少ない	・高齢者に割引システムがあっても良いのでは ・コミュニティバスは人数によって取り扱いを検討してはどうか ・免許証を返上すれば、交通バスが半額になる制度などを検討してはどうか
3-2. 地域で見守り活動が盛ん	・見守り体制が弱い。把握しきれていない。地域組織の弱体化 ・助け合いが必要。ケガや病気をする引きこもりの原因にもなる	・近所にいる民生委員を活用
3-3.孤独死や虐待、家庭内での暴力(DV等)がない	・一人暮らしや2人世帯の生活困窮者が増え、一人で悩み悪化してしまう	・生活支援より、生活資金のサポートをしてほしい
3-4.災害がおきても安心して避難	・不自由な方への津波災害対策が必要 ・津波の訓練を昼間に行うと若い男性が少ない	

4-3.必要な人が福祉サービスを受けられる	・保育園が少ない。二人目を妊娠した時に、一人目を預かってもらえなかった ・保育園をもっと利用しやすく ・保育所が少なくなっている ・子育てがしやすいまちにしたい。働きながら、子育てができる環境を若い人たちは希望している。認定こども園の必要性 ・子育て環境を充実させて欲しい ・デイサービスで少し状態が良くなっている	
-----------------------	--	--

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.人口減少について	・人口減少が不安 ・人口減・世帯数増の原因は、核家族化が進んできたためではないか	・若い世代が長く住める地域、観光に頼らない就労の場が必要。アクセスが良いが素通りしてしまい宿泊者も減っている ・若者向けの住居・就労場所の確保が必要
3.子ども・若者支援について	・就労が、医療・福祉・観光分野のみに限られる現実がある ・結婚・育児の意識が低く、若い世代の価値観の違いがある ・夢などがあると、若い人たちにとって地元の大学だと選択肢が少ない ・世代間の価値観の相違 ・若い世代の意識が、結婚・育児への関心が低い	・休耕地を活用し、若い方の就労の場にしたらどうか。収入を確保できるシステムが必要 ・使っていない土地を若者の定住化へ活用する
4.施設のあり方について		・田の真ん中にグループホーム作るなどの取り組みを検討してはどうか
5.行政からの支援について	・助成金が減った	

11. 小湊地区

日時	8月11日（火） 午後7時～午後8時30分
場所	コミュニティセンター小湊
参加者数	9名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.ライフステージに応じた健康づくり	・自主的な活動、健康づくりの質を高めたい ・元気なうちはコミュニティに入っているが、体調を崩すと生活面で自立できなくなってしまう ・元気なうちは良いが、何かあれば市や病院へお世話になれば良いと思っているのではないか	・地域の老人の健康に関することを地区社協のフォーラムを通して考えていく
3.身体活動・運動による健康増進	・ラジオ体操を小湊小学校体育館で行っていますが、夏休みを通して子どもが来ない ・毎朝、海岸清掃をしている	・ラジオ体操などを行い、高齢者を外へ連れ出す ・スロートレーニングの講座を立ち上げて10年なのでもっと広げていきたい。現在は3箇所で160人の参加がある ・スポーツ会は50人くらい申し込みがある。年間3万人以上で、コミュニティセンターに入りきらない。自主的活動に広がっていくと良い ・小学校と連携したらどうか

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
2-2.地域で気軽に交流	・地域に声掛けしている ・お寺の集まり、神社の集まりも多い	・なるべく多くの高齢者に外に出してもらう
2-4.福祉活動が活発	・小湊、民生委員、地区社協で協働がうまくいっていない	・介護サポーターを通して引きこもった高齢者を外へ連れ出す。小湊小で「元気でい鯛祭り」を行っている
3-2. 地域で見守り活動が盛ん		・独居高齢者の方への配食行う。小湊でボランティア20人、もう少し増えると良い。毎月130食作っている。民生委員にも声をかけてボランティア30人 ・独居老人へお弁当を月に1回配達する

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.人口減少について		・全国区の数値を参考にするよりも鴨川市のデータ分析が必要
2.空き家対策について	・空き家がたくさんある	
3.子ども・若者支援について	・若い人は雇用とお金がないと定住しないので、資源を活用した稼げる農業を	・産業を作るべき。近辺の資源を活用する。海藻や寺など
4.施設のあり方について		・空き校舎の活用法の検討・提案していく

12. 大山地区

日時	8月13日（木） 午後7時～午後8時30分
場所	大山公民館
参加者数	17名

◆座談会の様子



(1) 健康増進計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1. ライフステージに応じた健康づくり	・昔に比べて健康に気をつける人が増えたし、健康診断で指摘をしてもらえる ・日頃から仕事がりハビリになっている	○日頃から仕事がりハビリになっている ○高齢化率も高いが、元気な方も多い
2. 栄養・食生活による健康増進	・高血糖の人がなぜ増えたのか。砂糖の摂取過多が原因ではないか ・糖尿病が増えている原因としては食品が甘すぎたり、塩分も多いなどによるのでは ・食生活に気をつける。歩くのが運動にはならない ・独居高齢者が多い。食べ物の偏りの原因にもなっている	・食べ物に気をつける。塩分をしっかりと取る。カリウムも大切。毎日体操する ・地域への声掛けで糖分を減らす活動を試してみる。保健師さんにも指導してもらいたい ・生活支援介護予防サポーターの事業として、給食サービスを始め、社協と区を連携とっていく
7. 生活習慣病対策の充実	・健診受診率の低さをなんとかしたい ・受診するのに交通の方法も少ない	・ガンの原因を伝えて欲しい

(2) 地域福祉計画関連の意見

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1-1. 誰もが主役	・福祉のあり方を考えていく必要がある	
2-2. 地域で気軽に交流	・サロンは細かい地域で行っていて、人が集まってきている ・地域が広く、移動手段がない。サロンに行くのも大変 ・昔は定期的な集まりがあったが、現在はなくなっている	・高齢者の集まる場所を提供する。サポーター、区長、社協も協力する ・移住者とうまくやっていければ、良いのでは
2-3. 担い手を育む	・高齢化が進み、支える人がいない ・農業があっても人が集まりにくい ・高齢化率も高いが、元気な方も多い	
2-4. 福祉活動が活発		・道路などのハード面だけでなく、健康福祉や委員会を、区の中に立ち上げて取組むなど、ソフト面の重視も必要。社協と協力する。目的型だけでは足りない

		・組織の支えあいが必要
3-1.生活のしづらさを軽減	・買い物難民が多いので支え合いが必要 ・大山の高齢化率は高いが、買い物支援がある ・生活できる場所に、鳥獣が多くなっているが対策がない。注意喚起のみになっている	・車を借りることができる、買い物の支援があるとよい
4-2. 困ったらずくに相談		・24 時間相談を活用していく

(3) まち・ひと・しごと地方創生関連・その他

	地域の現状や地域での取り組みの状況、課題や困りごとなど、日頃活動をしている中で感じていること	課題解決に対して地域や自分たちで取り組めるアイデアなど
1.人口減少について	・勝浦市の人口が2万人きっている。減っている原因がわからない ・人口を増やすことが大事。若い人を呼び込む必要がある ・高齢化率が高く高齢者が福祉を支え恩恵を受けている。働いている人は、生活で精一杯である ・若い人が出ていっており、高齢者が増えている	・高速バスを使って他県から人を呼び
3.子ども・若者支援について	・仕事ができる環境づくりなど、同時にやっていかないと地域づくりはできない ・肉食系より草食系の人間が増えているのでは ・大山への移住者を増やしたい	・新しい雇用を作る ・鹿駆除なども早く行うべき。庭にヒルなどがいると、若い世代は出てしまう
6.健康福祉推進計画の策定について	・第一期の評価がないのに、二期を考えてもどうなのか	・計画の取り組みで、成果が出ているなら、そこからより充実していく方策を考えるきっかけにする ・課題などについて福祉計画などで分析して計画に盛り込む

